



Agenda

3 個別学習支援

一人ひとりの学力に応じたきめこまやかな学習指導で、自立した学習者を育てます。

アクティブラーニング型授業での学びを一層充実させ、生徒が希望する進路を実現させるためには、中学・中等1、2年生の段階で学習する方法を身につけておくことが非常に重要です。桐蔭学園では、2015年度中学・中等1年生より、生徒一人ひとりが自身専用のタブレット端末(iPad)を持つことで、よりきめ細やかな学習指導を行えるようになりました。タブレット上にそれぞれの生徒の学習時間の記録や定期考査、模擬試験の結果といった学習の履歴が蓄積されるため、生徒自身も学習状況を把握しやすくなりました。また、生徒の記録に教員がコメントをつ

けるなど、双方向のコミュニケーションも行われています。

タブレットには、小学校レベルから高校まで様々な難易度の問題が約100万題収録された「e-トレ」が入っており、授業の進度や個人の理解度に応じて自宅学習でも活用することができます。下記の通り、学習計画→e-タイム→e-チェック→e-フォローというスモールステップでの学習のサイクルを築き、学習方法の習得や習慣づけを図るとともに、面談の機会を充実させ、生徒のやる気を育てていきたいと考えています。



学習計画

各自の状況に合わせ学習計画を立て、実際の学習時間の記録をつけます。教員からのコメントや、学習時間が積み重なっていくことが励みになります。

定期考査前には考査計画表を配布し、自分で計画を立てられるようサポートします。

»



e-タイム

ホームルームなどの時間を活用し、「e-トレ」に収録された英語・数学の問題を解く時間を設けています。2週間～1ヵ月前に学習した範囲を指定し、スモールステップで繰り返し学ぶことで、学習内容の定着を図っています。

»



e-チェック

英語と数学の2教科で原則週に1回ずつ、e-タイムで指定した範囲について小テスト形式のe-チェックを行っています。授業で学習した内容について自分の理解度を確認する機会となっています。

»



e-フォロー(チューター制度)

e-チェックで理解が不十分だった場合には、土曜日の放課後に本校卒業生である現役大学生がチューターとして個別に指導を行っています。チューターによる親身な指導を受け、自発的に学ぼうとする姿勢が育ってきています。



学習方法の手引き

生徒が自ら考え、効果的に学習を進めていくためには「どのように学ぶのか」という学び方を知ることが大切です。この桐蔭学園オリジナルの学習方法の手引きには、基本的な学習の仕方や家庭学習のポイントなどが記されています。



個人面談

中学・中等1、2年生では年4回の定期考査後に担任が個人面談を行っています。考査結果や各教科の学習の仕方を担任と生徒と一緒に振り返り、一人ひとりの学習状況に応じた助言を行うとともに、やる気を引き出し、学習への意欲を高めていくことを目指しています。